

『道路のデザイン～道路デザイン指針(案)とその解説』の改定内容(案)

現 行	改定内容
はじめに	
原論編	
第1章 思想	<p>■本書全体→本書全体の内容のバランスを考慮して最小限の加筆に留め、具体的な記載が必要な場合は道路附属物等ガイドラインへ盛り込む。</p> <p>・最新資料や追記部分の写真等、若干の見直しは必要だが、考え方に基本的な変化はないため、抜本的な入替えは不要である。</p>
1 美しい道路づくりの意義と必要性	
2 美しい道路づくりとは	
(1)地域との調和	
(2)利用者の快適性	
(3)姿形の洗練	
第2章 知識	
1 道路の形状特性とデザイン	
2 道路の利用特性とデザイン	
3 道路の社会特性とデザイン	
第3章 技術	
1 道路デザインの技術	
(1)統合的な思考のために	
(2)リアリティを得るために	
(3)システムとして機能させるために	
第4章 実践のイメージ	
実践編	
指針(案)の目的	
第1章 道路デザインの目的と方向性	
1-1 道路デザインとは	
1-2 道路デザインの目的と対象	
1-3 道路デザインの方向性	<p>■災害復旧時の道路景観に対する配慮について追記する。</p> <p>■『(4)特別な景観的配慮が必要な地域』に歴史まちづくり法による重点区域等や歴史的価値の高い建造物や空石積み擁壁等の既存道路施設についての保全の考え方を追加する。</p> <p>■本来、どの地域においても景観検討の基本は変わらず、等しく対処する必要があり、「特別」と具体性をもたせて強調すると分かり易いが、軽重と錯覚する問題がある。</p> <p>■ただし、歴史的な地物、保護されるべき自然については1-3にある程度書込んだ方が実践的である。</p>
第2章 道路デザインの進め方	
2-1 道路デザインの心得	
2-2 道路デザインの手順	
2-3 道路デザインの表現方法	
第3章 地域特性による道路デザインの留意点	
3-1 山間地域における道路デザイン	
3-1-1 自然への影響の軽減と地形の尊重	
3-1-2 地域の景観資源の活用	
3-2 丘陵・高原地域における道路デザイン	
3-3 水辺における道路デザイン	
3-4 田園地域における道路デザイン	
3-5 都市近郊地域における道路デザイン	
3-6 市街地における道路デザイン	
3-6-1 道路ネットワークと道路デザイン	<p>■道路の使われ方に動きがあり、車道の歩道への転換、自転車や公共交通の優先等の事例が出ている。そうしたところから道路のネットワークの変化を踏まえ追記する。</p>
3-6-2 道路の性格に応じたデザイン	
第4章 構想・計画時のデザイン	
4-1 道路デザイン方針の設定	
4-2 構想・計画時における道路デザインの重要性	
4-3 地方部の道路の計画	
4-3-1 比較ルートの検討	
4-3-2 線形計画	
4-3-3 横断計画	
4-3-4 道路構造の選択	
4-4 市街地の道路の計画	
4-4-1 地域資源・街割り・公共施設等の配置と道路の線形	
4-4-2 都市活動に対応した横断構成	
4-4-3 幅員構成の再構築	<p>■近年の幅員構成の再構築を含めたりノベーション手法について、記載内容を充実させる。(例えば、自転車走行空間創出、公共交通優先等)</p>
4-4-4 道路構造物の考え方	
4-4-5 道路と沿道の一体整備	<p>■近年の事例を示し方向性を示唆する。可能なら「事例編」で整理する。</p>
4-5 現道拡幅の際の考え方	
4-6 他事業との連携	<p>■近年の事例を示し方向性を示唆する。可能なら「事例編」で整理する。</p>
第5章 設計・施工時のデザイン	
5-1 設計・施工にあたっての基本的な考え方	<p>■施工後の経年変化を考慮し、施工直後だけでなく、維持管理段階を含めた検討を行うように追記する。</p> <p>■歴史的価値の高い既存道路施設や環境の保全に関する記載を追記する。</p> <p>■設計時の景観的配慮の思想が現場の施工時に齟齬が生じる場合の対応について追記する。</p>
5-2 土工設計	
5-2-1 設計開始にあたっての留意事項	
5-2-2 のり面に対するアースデザイン	
5-2-3 擁壁・腰石積み	<p>■空石積みについて追記する。</p> <p>■化粧型枠は回避する旨、追記する。</p>
5-2-4 のり面の表面処理	<p>■法面保護や補強土壁の整備の留意点などについて追記する。</p>
5-3 橋梁・高架橋の設計	
5-3-1 設計の基本的考え方	

■『道路のデザイン～道路デザイン指針(案)とその解説』の改定内容(案)

現 行	改定内容
5-3-2 形式選定と本体設計	<ul style="list-style-type: none"> ■偏心ケーブル採用時の安全上の留意点、道路内部・外部景観の課題等を記載し、採用時の注意を促す。 ■経済的な理由で採用されやすいT型プレテン桁やI型ポステン桁について、現場打ち地覆コンクリートの工夫等で一定の効果があるので、採用する際の留意事項や現場で工夫できることを追記する。
5-3-3 地形・植生に対する配慮	
5-3-4 都市近郊・市街地における高架橋の設計	
5-3-5 横断歩道橋・跨道橋等の設計	
5-4 トンネル・覆道等の設計	
5-4-1 トンネルの設計	
5-4-2 掘割道路等の設計	
5-4-3 覆道の設計	
5-5 車道・歩道及び分離帯の設計	
5-5-1 車道・歩道の舗装(※新規追加)	<ul style="list-style-type: none"> ■舗装の一般的な考え方、舗装材の選択等について記載し、カラー舗装についても言及する。
5-5-2 歩道空間の設計	<ul style="list-style-type: none"> ■自転車走行空間の設計上の留意点を追記する。 ■一部5-5-1に移行
5-5-3 バス停留所等の配置	
5-5-4 植樹帯の配置と植栽設計	
5-6 ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ■近年の動向を踏まえて追記する。
5-7 交差点等の設計	
5-7-1 平面交差点の設計	
5-7-2 立体交差点等の設計	
5-8 休憩ポイントの設計	
5-9 環境施設帯の設計	
5-10 道路附属物等の設計	
5-10-1 交通安全施設等の設計	<ul style="list-style-type: none"> ■既設の道路附属物等を撤去・集約する観点での景観改善への効果について追記する。 ■防護柵の必要性の検討部分に代替案として植栽も含め、検討の余地があることを示す。 ■公共建築物における木材の利用の促進のための計画の策定(平成28年4月)等に関連して、地域特性等から道路附属物での木材の使用を検討するように追記する。 ■照明は、光色や灯具間隔、連続性の確保等の基本的な考え方を追記する。 ■準拠基準として、『道路附属物等ガイドライン』や『役割と使い方』を記載する。
5-10-2 遮音壁	
5-10-3 道路占用物件	<ul style="list-style-type: none"> ■道路占用物件に対する道路デザイン上の留意点や管理者サイドの考え方を追記する。 ■準拠基準として、『道路附属物等ガイドライン』を記載する。
5-11 植栽の設計	<ul style="list-style-type: none"> ■街路樹関係のマニュアル類から、基本的な考え方を強調して見直す。
5-11-1 植栽の景観的役割	
5-11-2 植栽形式と使用種の選定	
5-11-3 植栽基盤と植栽空間	
5-11-4 既存樹林・樹木等の保全・活用	
5-11-5 既存道路の改築時における樹木等の取り扱い	
5-12 色彩の設計	<ul style="list-style-type: none"> ■特に色彩を選定する場合にも周囲の景観との調和を意識することを記載する。
5-13 暫定供用を予定する道路の設計	
5-13-1 土工の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■暫定供用期間の留意事項を追記する。 ■暫定供用期間が特に長くなる場合の将来形を見据えた暫定整備の留意事項を補足する。(例えば、長期間に渡っての残地部分への防草シートやコンクリートの敷設回避や有効活用方法(植栽や緩衝帯)、設計時点の工夫の重要性について追記する)
5-13-2 道路構造物の考え方	
5-14 施工時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ■設計上は現れなかった現場での対応や施工の精度についての考え方を追記する。(例えば、高低差のすりつけ方や舗装材の張り方等) ■施工期間中の仮設物についての配慮事項を追記する。(例えば、仮囲い等)一方で、近年様々な工夫が見られるが、過剰な装飾等の的外れのものがあるため、基本的な考え方を追記する。
5-15 既存道路におけるその他の景観改善	
5-15-1 歴史的建造物等の保存	<ul style="list-style-type: none"> ■空石積み擁壁等の既存道路施設についての保全の考え方について追記する。
5-15-2 無電柱化	<ul style="list-style-type: none"> ■平成28年12月に成立した無電柱化法の趣旨を踏まえて、内容を充実させる。
第6章 管理時のデザイン	
6-1 維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ■経年変化について追記する。
6-2 景観の点検と地域との関わり	
6-3 関係者との協力体制の構築と支援	<ul style="list-style-type: none"> ■道路協力団体制度や日本風景街道について追記する。
6-4 植栽管理	
第7章 道路デザインのシステム	
7-1 一貫性の確保	
7-1-1 デザイン方針の明確化	
7-1-2 検討体制の整備	
7-1-3 関係者の役割分担	
7-2 技術力の活用と向上	
7-3 デザインにかかる仕組みの確立	
7-3-1 景観法等の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■景観重要道路における無電柱化について追記する。
7-3-2 景観アセスメントの実施	<ul style="list-style-type: none"> ■現在の指針(案)解説刊行後に通知された「国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針(案)」(平成19年3月)を追記する。 ■景観アセスでの景観検討の流れに本書を活用するように記載する。
事例編	
1. 日光宇都宮道路	
2. 仙台の大通り	
3. 福島西道路	
図版一覧	
参考文献一覧	